

情報連絡員だより

－平成 28 年 7 月分の報告より－

様々な課題が山積、苦戦が続く

業 種 / 景 況 天 気 図		概 況
全 体		梅雨明けの遅れや夏物商品の需要の伸び悩み、競争激化、受注量の減少等、多くの業種が苦戦を強いられている。こうした中、業界の景況感が改善しないながらも、企業努力により消費喚起を行う姿も散見される。
製 造 業	食 料 品	パンは消費量が伸長している中、消費者ニーズへの対応力が課題。製麺は取引先からの値下げ圧力が大きく、依然厳しい状況。食肉は豚の成育不足による、と畜頭数の減少を加工業務で補う。
	織 維 ・ 同 製 品	桐生織物は夏物関連が予想以上に苦戦している。伊勢崎織物は組合員から人材確保の相談があるなど、後継者問題が課題。繊維製品は受注が極端に減少している中、バーゲンセールが前倒しで開催されている状況。
	窯 業 ・ 土 石 製 品	生コンは前年割れが続くも、前橋や高崎等の県央地域を中心に回復傾向。コンクリート製品は公共・民間を問わず工事の発注量が減少し、苦境に立たされている。砕石は景況感の悪化傾向に歯止めがかからず。
	機 械 ・ 金 属	円高を背景として、引き続きコストダウン要請等がある中、需要は減少傾向。富士重工関連は秋のフルモデルチェンジの実施に向け、北米進出企業が対応に追われる一方、国内では企業間で仕事量に格差が見られる。
	そ の 他 の 製 造 業	木材は原料である丸太の供給不足が続く厳しい状況。印刷は受注の減少により新規受注獲得に向けた営業活動が必須に。ゴムは売上・収益の悪化が続く中で、積極的に新分野に進出し活路を模索する企業が散見。
非 製 造 業	卸 売 業	太田の建材資材卸は、大口取引先がメーカーとの直接取引を開始し、売上・収益ともに大きく減少するなど、今後も中抜き現象の増加を危惧。農産物卸は夏野菜を中心に順調な出荷となるも、安値相場が続く。
	小 売 業	燃料小売は元売の経営統合を見据え、元売販売子会社がシェア拡大のための安値乱売で、地場経営の給油所は苦戦。生花小売は天候不順も重なり需要停滞が目立つ。商店街はイベントにより集客増も、波及効果に偏りあり。
	サ ー ビ ス 業	草津温泉は価格の見直しにより売上が増加している施設も見られ、平日の稼働率も上昇傾向。不動産取引は太田市域において、太田駅周辺の再開発プロジェクトの相乗効果等もあり、取引が増加するなど好調に推移。
	建 設 業	解体工事は夏休み期間を利用した学校関係工事が増加。電気工事は梅雨明けが遅れたことで、エアコンの設置及び取替工事の件数が想定より伸び悩む。塗装工事は大型物件の受注も少なく、仕事量は引き続き減少傾向。
	運 輸 業	梅雨明けが遅れた影響により月の前半の荷動きが鈍かった一方で、後半以降は一部で車両の手配が困難になる状況も見られた。小型運送は全般的に動きが鈍く、自動車部品関係及び食料品関係の輸送が大幅に減少。